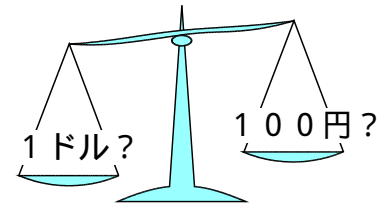


外貨

そもそも「外貨」とは何か？円以外のお金を総じて「外貨」という。私たちは国内では「円」でものを買う。しかし、例えばアメリカに行って「1000円札」を出して品物を買おうとしても相手は迷惑だろう。当然ながらドルで支払いをしなければならないので、銀行に行って円をドルに換える(外貨を買うともいう)必要がある。それでは1000円をドルに換えようとしたときいくらになるか？という疑問が出てくるが、現在1\$ = 110円程度なので、1000円は $1000 \div 110$ で9\$くらいになる。このように1\$ = 110円という、ドルと円の交換比率を為替レートまたはドル円為替レートという。この為替レートは24時間常に変化している。



ヨーロッパにはたくさんの国があり、それぞれにお金の単位があつては面倒なので十数年前に「ユーロ」というお金の単位を作った。未だにイギリスはポンドを使っているが、ヨーロッパやその周辺の国ではユーロを使っている。その他世界で使われる通貨には、ドル(米ドル、カナダドル、豪ドル、香港ドルなど、同じドルでも価値はそれぞれ異なる)、クローネ、元、ウォン、ルピーなどさまざまなものがある。

外貨預金

現在日本の預金利率は極端に低く(定期預金でも0.1%以下)、銀行にお金を預けてもほとんど利子が付かない。しかし、オーストラリアなどのある一部の国では5%を超える利率というのも見られる。

例えば、1万円を1年間銀行に預ける場合、もらえる利子はおよそ次の通りである。

- ・日本 ……5円
- ・オーストラリア ……400円



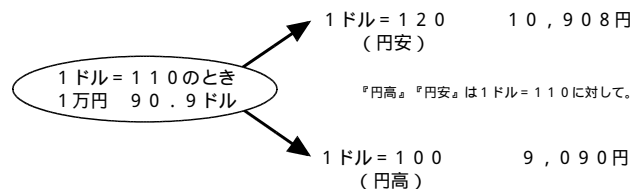
もちろんオーストラリアに預金をするときには円をオーストラリアドル(豪ドル、オージードルなどとも呼ばれる)に換えて預金をするのが条件となる。また、実際には税金(利子の20%)や手数料等がかかるし、預金額などの条件、為替レートなども影響するので単純には言えないが、外貨預金をする人が増えているのは事実である。また、将来その国に旅行に行った場合のことを考えて預金するという人もいる。

そこで、将来経済的に余裕ができたときに役立つかもしれない外貨預金について、簡単に説明しよう。

必ず儲かるの？

答えは“ノー”。外貨預金をする上で最も重要なのは、いったいいくらで円を外貨に換金できるかを示す為替レート。

例えば右図のように、1ドル = 110円の時、1万円をドルにすると90.9ドルになるが、その後為替レートが変化すると換金後の円額が変わってくる。



どこで換金するの？

米ドルやユーロなどへの換金は銀行で行っている。しかし、換金には手数料がかかる。ニュースを見ていると為替レートが「1\$ 108.70 - 106.70」などのように表示されるが、それぞれTTSとTTBと呼ばれ、「1\$を買うためには108.70円必要です」、「持っていた1\$を円にするときは106.70円になります」という意味である。銀行も慈善事業ではないのでこのような手数料を取る。これが為替手数料と呼ばれるものである。